

浄願寺だより

投資のススメ

これから成長していくものに、今持っている資金やエネルギーを使つて、将来今より大きな利益を得ることを「投資」と言います。もちろん投資に成功する人も失敗する人もいる訳ですが、私たちの限られた資産や体力を、「これから成長する」ものにしつかり投資することが肝要です。しかし、問題なのは、「これから成長するもの」とは一体何かということなのです。

人生九十年時代とも百年時代とも言われます。私たちが豊かな人生を生きるために、いったい何に投資すれば良いのでしょうか。人生を通して成長し続けるものなどあるのでしょうか。

経済的な豊かさを求める事？それとも健康？知的好奇心を満たすために学びなおしをする事？それらは私たちの人生、特に折り返し地点を過ぎた私たちの日々の暮らしを豊か

R5夏No.19

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的ににお寺近況を聞かせてほしい、とのご要望がありこのたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまわめてお知らせしようと思
います。夏冬二回発行を予定しています。

令和五年八月三日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

なものにするためにとても大切なことと思われれます。しかしそれらが、私たちが八十歳になっても九十歳になっても「成長し続ける」事かと言えば疑問符が付きます。例えばお金は必要なものですが、ある程度の年になると、生活に必要な分以上の貯蓄があつてもそれはあまり幸福度の増大に寄与しないようですし、人間の健康も知力も残念ながら人生のある時点からは緩急の差はあれど、下降線をたどつて行かざるを得ません。

しかし朗報があります。そんな私たちの人生にあつて、八十年代、おそらく九十年代になつても成長し続ける分野があるそうです。あるアメリカの科学誌で発表された34万人を対象にした研究によると、私たちが「今生きている」ということに、「幸せを感じる」能力は八十五歳になつてもなお成長を

つづける事が可能なのだそうです。「生きていくことに幸せを感じる」などという事は、青春を謳歌する若者の特権のように思われますが、実際には二十代から四十代にかけて幸福を感じる気持ちは低下して行き、四十代半ばから徐々にまた陽気さや樂觀的な物の見方が身に付き始め、人生を幸福と感じる力は八十五才を超えてなお成長し続けるそうです。

おわかりでしょうか。私たちが生涯を通して何かに投資するならば、「生きていくことに幸せを感じる」力を育むことにもつと投資すべきだとは思われませんか。それが私たちが持っている物の中で唯一、一生涯を通して「成長し続ける」可能性のあるものなのですから。

別の研究では、私たちが老後「幸せ」を感じるために一番大切な要素は、家でもお金でもなく、「あたたかな人間関係」なのだそうです。

たとえ重い病の中にある人でも、周囲と「あたたかな人間関係」を保っている人は、同じ病気でも「いまが幸せだ」と答える人の割合が多いようです。

「あたたかな人間関係」を育むもの、それは言うまでもなく、寛容さであり、思いやりであり、助け合いの精神です。生涯を通して、寛容さや、思いやりや、助け合いの心を育て続けることこそ、私たちにできるこの人生に対する最大の投資なのです。そこには年齢も関係なく、資金も学歴も要りません。

二五〇〇年の昔から、ことあるたびに、「寛容であれよ、思いやりをもつて人に接し、助け合つて生きることが、しあわせへの近道だよ」と人々に説かれたお釈迦さまは、先見の明をもつた現実的な投資家でもあつたのかもしれない。

令和五年八月 住職

あたらしい

畳の香り

さわやかに

親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年の記念事業として、浄願寺本堂の外陣の畳、四十二枚を新調していただきました。

本堂に足を踏み入れるたび、イ草のさわやかな香りが漂ってまいります。縁のそろった若草色の畳は見た目にも美しいものです。門信徒の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

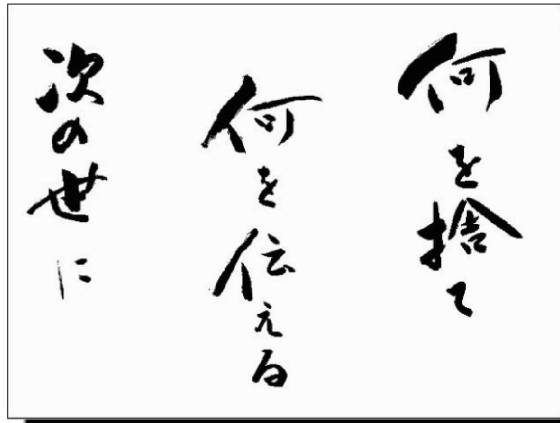
また同時に、先代が、お寺の畳は、「くたびれていけばいいほどいい」と言っていたことも思い出します。くたびれた畳は、それだけ多くの方にお参りいただき、お寺が本来の役割を果たさせていただいている、という証だからでしょう。その言葉の通り、また多くの皆さんに踏みしめていただき、すぐこの畳がくたくたに

お寺の掲示板



気持ちの良い新畳の本堂

なるように、これからも聞法の場を守つていきますので、どうぞ皆様もぜひ、お参りやお寺の行事にごぞつてご参加ください。お待ちしております。



門徒の広場

令和5年度前期

門徒の広場はWEB版では
ご覧いただけません

みなさんの声から生まれた新しいかたちのお墓です。



ふるさとの杜墓苑
永代供養墓

www.furusatonomoriboen.com

編集後記

私には子供の頃から、一つのことを考えたしたら、他のことが疎かになり、注意が散漫になるクセがあります。このクセにはメリットもデメリットもあるのですが、明らかに車の運転には不向きで、何度かヒヤッとしたこともあり、早い段階で運転はしないようになりました。お盆参りも徒歩圏内以外は、妻が乗せて行ってくれます。ありがたいうえに、これだなぁと思つていきます。毎回世話になるのも面倒なようでもありますが、これはこれでいいと思つています。

浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話(0773)-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法